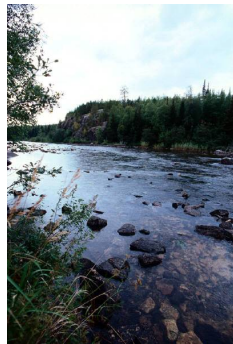


Master Plan Master Plan

鎌倉市下水道マスタープラン



～人と自然にやさしい都市づくり～

鎌 倉 市

はじめに

鎌倉市は、日本を代表する源氏ゆかりの古都であります。温暖で過しやすい気候と、陽光の降り注ぐ穏やかな海、緑あふれる山並み、複雑に入り組んだ山裾から広がる寺社や市街地は、遠い歴史への人々の思い入れをやさしく包み込むかのようです。

この潮風の香る古都はまた、滑川などに架かる橋や清水をたたえた井戸を鎌倉の十橋・十井とも数え上げたように、明澄な水を身近に意識しながら、人々の生活が営まれた地でもあります。

振り返って下水道の整備は、現代の都市を正に地面の下から支える基盤として、なくてはならない重要な事業であり、都市基盤の一翼を担っています。

下水道に掛かる今後の具体的な事業としては、施設の維持管理を基本として、さらに多様な取組みの展開が求められることとなりますが、近年の気象の変化による台風や豪雨による被害の増大や地震災害への対応等、市民生活の安全確保のため、下水道が担う役割も一層高まっているとともに、市街化調整区域の整備のあり方等、新たな課題への対応も目前となっています。

本マスタープランを基とした事業の推進が、鎌倉市総合計画等の上位・関連計画による事業と一体となりながら、よりよい鎌倉市のまちづくりのために生かされ、未永く古都としての魅力の下支えを果たしていけるようここに念願するものであります。

平成18年3月

鎌倉市長 石渡 徳一

下水道マスタープランの改定にあたって

鎌倉市の公共下水道事業は、豊かな自然環境と歴史的な文化遺産に囲まれた都市基盤整備の一翼として、昭和33年3月にスタートしました。

事業の着手は、人口も多く観光客の来訪も多い、JR 鎌倉駅を中心とした鎌倉地域（鎌倉幕府の置かれた、いわゆる旧市街）から始められ、その後、七里ガ浜沿いに腰越地域の整備を進めました。

事業の区域分けとしては、鎌倉市の地形上の特性から、二つの処理区にそれぞれ終末処理場を持った単独公共下水道事業として展開しており、平成5年6月には、JR 大船駅を中心とした大船地域・深沢地域・玉縄地域の一部の供用開始を行い、現在の普及率は全体で95.5%まで伸びてきました。

本マスタープランは、鎌倉市の下水道整備（河川・水路整備を含む）について、21世紀に至る基本的考え方を明らかにし、具体的な計画の位置付けとその重要性を改めて体系的に整理し、各個別の施策が、大局的な認識の中でより効果的かつ効率的に展開できるよう、平成6年11月にとりまとめたものです。

当初策定から10年を経た中で、公共下水道の污水管渠の布設は順調に進み、ほぼ事業認可区域内の整備は完了を迎えており、事業の大きな流れは、施設の維持管理と大規模な再構築、又重要な社会資本を形成する公共下水道としての多様な役割の検討と実施に移ってきています。

今回の改定は、原則として現マスタープランを基に、多種多様な下水道関連事業の全体を、現在の状況に即してできるだけ分かり易く整理・記述するとともに、それら相互の密接なつながりを簡潔に体系化しています。

本マスタープランが、引続き鎌倉市の下水道整備の指針として役立つことを期待いたします。



マスタープラン改定プロジェクト会議の様子

目次

はじめに

下水道マスタープランの改定にあたって

第1章 マスタープランの目的等

「1 - 1 目的」	1
「1 - 2 位置づけ」	2
「1 - 3 構成」	3

第2章 基本的考え方

「2 - 1 基本認識」	4
「2 - 2 基本理念」	6
「2 - 3 テーマ」	8
「2 - 4 基本方針」	9

第3章 現状把握と将来展望

「3 - 1 経過」	15
「3 - 2 現況」	17
「3 - 3 将来展望」	25

第4章 施策の体系

「4 - 1 施策の分類」	27
「4 - 2 個別施策の概要」	28

第5章 計画の組み立てと期間

第6章 施策展開に向けて

関係資料

鎌倉市公共下水道（汚水・雨水）計画図